参考資料・速報値

２０２４年２月８日

《チャイルドラインデータ資料》

2023年度・第３四半期

【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

▶ 今期のテーマ「希死念慮」◀

▶ 2023年10月～12月のアクセス内容と分析 ◀

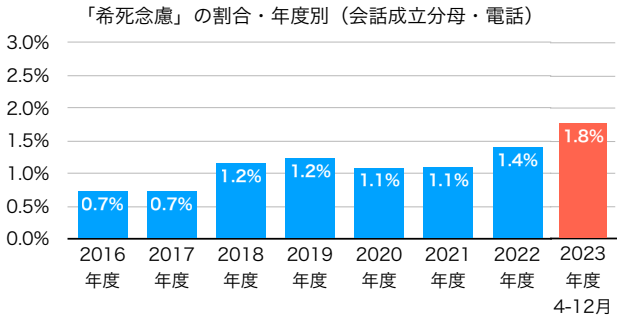
《第３四半期のテーマ「希死念慮」》

今回は「希死念慮」について調べました。希死念慮（自殺念慮）は、チャイルドラインの「深刻な悩み」の中でも常に上位です。ここでは過去７年間の「電話」のデータ集計を行い、傾向をみました。近年「子ども・若者の自殺者」が増加傾向です。なぜ自殺に追い込まれるのか。その辺りの課題のヒントも探ります。データは、主に「会話成立を分母とした割合」で集計しています。

《希死念慮》

◆「希死念慮」の年度別割合

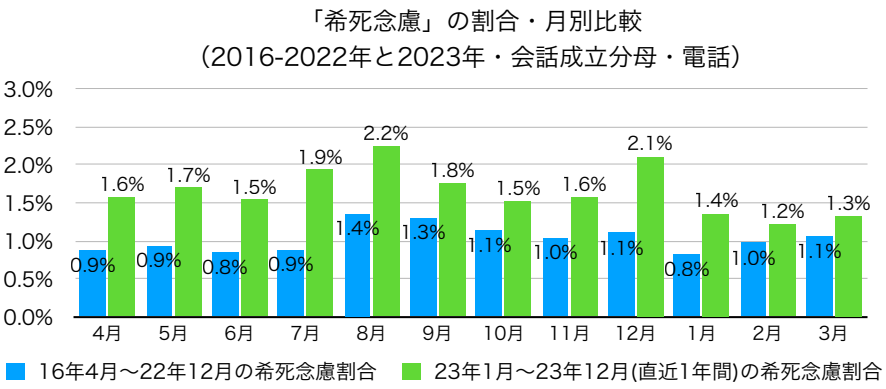
2016年度から2023年度までの希死念慮割合を見てみると、わずかに上昇傾向であることがわかります。特に、2022年の1.4%が気になっていましたが、2023年の4-12月の暫定値においては、1.8%とさらに上昇しており、今年度の残り３ヶ月でこの割合がどうなっていくのか、大変気になるところです。冒頭でも触れましたが、子どもの自殺者は近年増加傾向にありますので、注目したいデータといえます。



◆月別傾向（全体と直近１年）

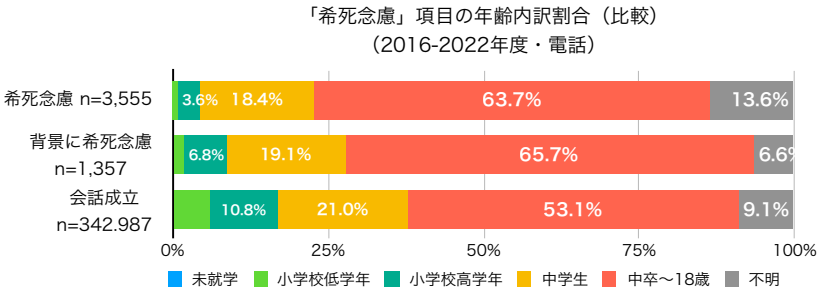
2016年度～現在までの通期を月別の割合でみました（直近一年のみ別グラフ）。

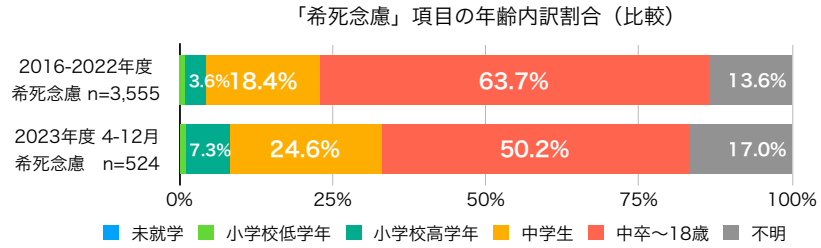
希死念慮は、16-22年度は多少の上下があるものの、一年通じて１％前後で推移していることが特徴です。一方で、ここ1年（23年1月-12月）に限定してみてみると、どの月も例年よりも、0.2ポイントから1.0ポイント高くなっている傾向でした。この変化の背景はこのデータでは明確な答えは見えてきませんが、１２ヶ月連続で以前より上回っていますので、確かに希死念慮が増えているといえるでしょう。



◆ 希死念慮の年齢割合

年齢の割合を見ました。中卒～18歳が63.7%と多く、次に中学生18.4%、小学校高学年3.6%となっています。また主訴が別にあるものの話のなかで「希死念慮」を抱いている可能性がある内容を「背景に希死念慮」として集計したところ、小学校高学年に違いが見られるものの「主訴・希死念慮」の年齢割合と概ね似た傾向にあることがわかりました。「会話成立」の全体を比較しても「中卒～18歳」の子どもたちの割合が高いことがわかります。





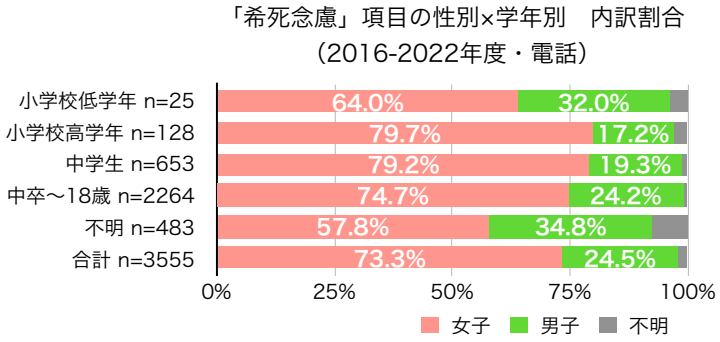
この集計は、日本財団の調査においても、似た傾向を示しています（※）。

また2023年4月～12月は、2016～2022年度と比較して「小学校高学年」と「中学生」の割合が増加し、「中卒～18歳」の割合が減るなど変化が見られます。

※「『日本財団第４回自殺意識調査』報告書」（2021）：https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/08/new_pr_20210831_05.pdf

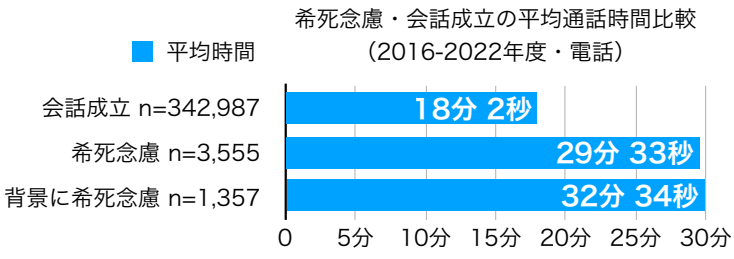
◆希死念慮の性別×年齢

性別と年齢の相関を見てみると、小学生から１８歳まで、希死念慮の訴えは女子が多くを占めている傾向です。一方で、男子の希死念慮が少ないかどうかは注意が必要で、ここでは「チャイルドラインという窓口、かつ声を出す希死念慮の電話」へのハードルが女子のほうが低い、と理解するほうが適切かと思われます。日本財団の調査においても17歳・18歳は、の割合が高い傾向となっていますが、他の年齢割合は差異があるので、さらなる分析が必要です。（2023年度は大きな変化がなかったので省略）



◆希死念慮の平均通話時間（比較）

通話時間は、全体を示す「会話成立」が18分2秒なのに比べて、「主訴・希死念慮」は29分33秒、「背景に希死念慮」がある集計においては32分34秒と大幅に長くなる傾向でした。



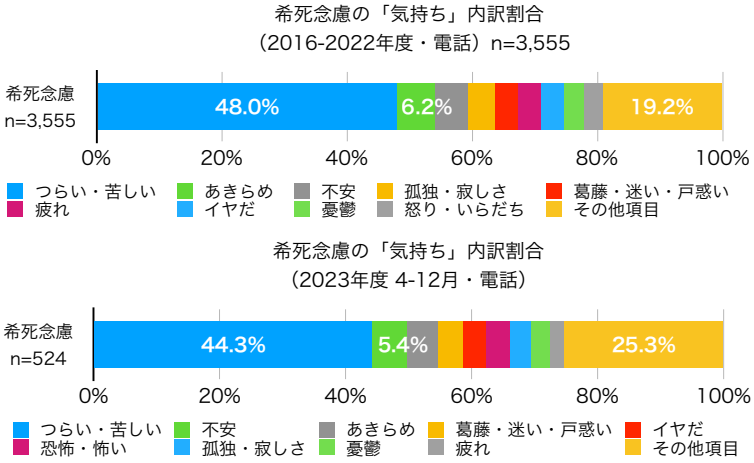
これは、希死念慮の深刻度に関係して、時間をかけて丁寧に聴く必要性があること、子ども自身が発する背景に何があるかを考えること、その心境に至る部分を言語化すること、受けられる支援がどこにあるかなどの環境面をさぐることなどで、ある程度の時間（心理的ハードル等）を要していることなどが考えられます。

◆「気持ち」に関する傾向

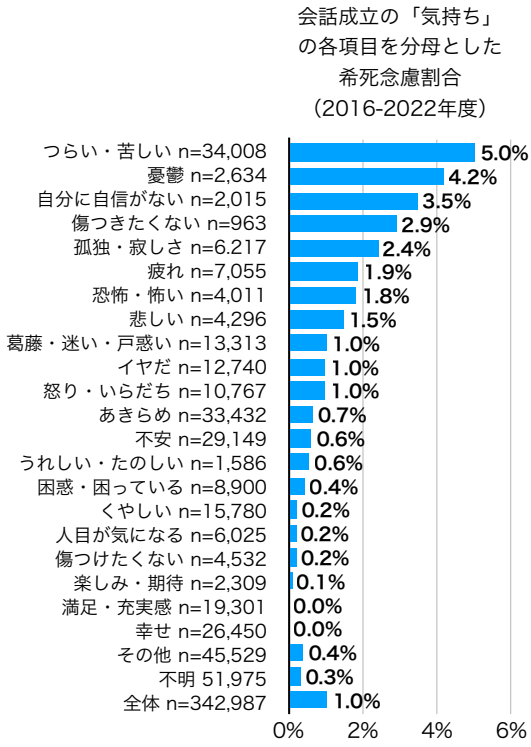
「気持ち」項目を集計しました。

約半数は「つらい・苦しい」で、続いて「あきらめ」「不安」「孤独・寂しさ」などが続いています。つらい・苦しい以外にも、さまざまな感情を抱いていることがうかがえます。

一方、「会話成立の『気持ち』の各項目を分母とした希死念慮割合」のグラフからは別な側面が見えてきます。「気持ちの各項目」（会話成立）ごとに希死念慮割合に違いがあることがわかってきたのです。

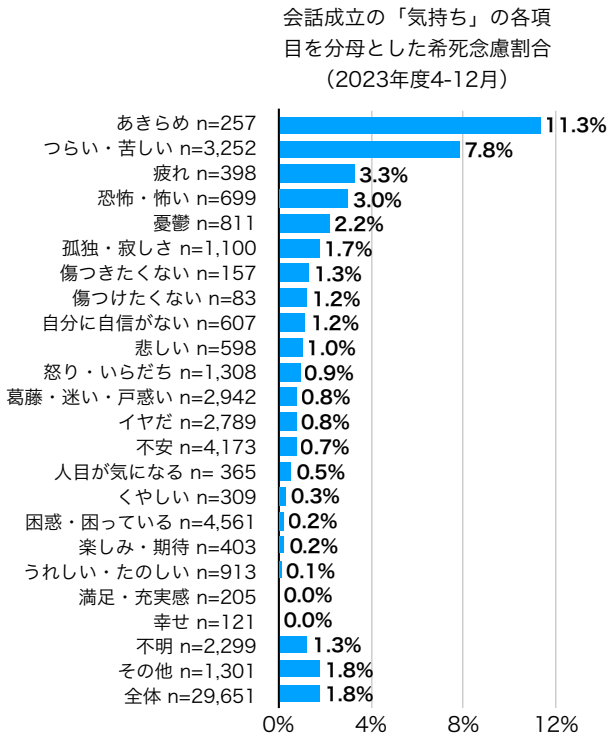


たとえば、会話成立全体の中の「つらい・苦しい」という項目は34,008件（=n）ですが、その項目の「希死念慮」の割合は「5.0%」となっています。「憂鬱」4.2%、「自分に自信がない」3.5%、「傷つきたくない」2.9%、「孤独・寂しさ」2.4%と続きます。そもそも「全体」（会話成立総数）の希死念慮の割合は「1.0%」（グラフ一番下の項目）です。それに比べて、「つらい・苦しい」や「憂鬱」「自分に自信がない」などにおける希死念慮の割合2.4倍～5倍と、とても高くなっています。



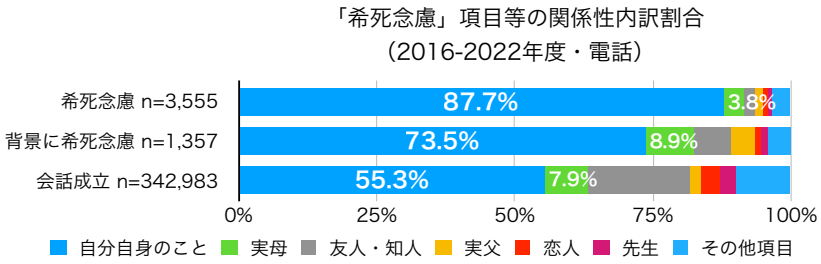
希死念慮を訴える子どもの気持ちは「つらい・苦しい」が大きなポイントとなっていますが、憂鬱や自分に自信がないこと、傷つきたくないと思っていること、孤独・寂しさを感じていること、疲れていること、恐怖や怖さ持っていることも訴えているなど、抱えている気持ちはさまざまです。 特に1.5%以上の８項目は、他の電話内容とは違う特徴があり、希死念慮に至る要因を探る上で、興味深い結果です。

さて、2023年度の最新データもグラフにしてみました。非常に興味深いのは、過去７年間の累計と上位項目が違うところです。一番割合が高いのは「あきらめ」で11.3%、次いで「つらい・苦しい」7.8%となりました。「あきらめ」は、「全体」の1.8%の６倍以上となりますので、気になる数字です。ただし、期間が限られているので希死念慮件数自体が多くないこと、「あきらめ」の分母が大きくないこと、同じ人が複数回かけることも考えられることと、今後３ヶ月で変動する可能性は十分考えられるので、あくまでも〈参考値〉として理解する慎重さが必要です。今後、分析を進めていきたいと思います。



◆関係性

「関係性」項目を集計しました。「自分自身のこと」が高い割合で占めて占めています。続いて「実母」「友人・知人」と続きますが、「背景に希死念慮」もおおむね似た傾向です。

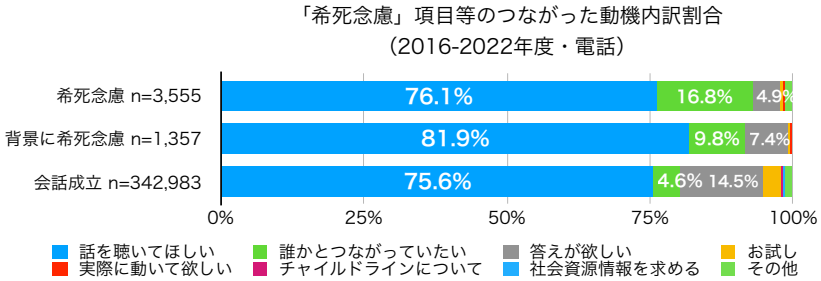


※1 2023年度は、上記グラフと大きな変化がなかったので省略

※2 「希死念慮」は、関係性の項目を概ね「自分自身のこと」に分類する流れになっているので、参考値です

◆つながった動機

つながった動機について集計しました。「話を聴いてほしい」が会話成立同様８割近くを占めています。 一方「誰かとつながっていたい」は、会話成立と比較すると12.2ポ イントの開きがあり、希死念慮の特徴といえます。



気持ちや関係性にも関連しますが、「死にたい・消えたい」という思いを直接解決してほしいというよりも、聴いてほしい、つながりたいと望んでいることから、まずはその気持ちを受けとめること、寄り添うことが何より大事であると考えられます。その上で、解決への方策はどこにあるか、環境を変えたるめの方法など、突きつけられた課題を考えていく必要があるように思います。

◆まとめ

チャイルドラインにつながる子どもたちが訴える「希死念慮」は、この７年間において徐々に割合が高くなってきています。特に、2023年度は1.8%と、過去よりも高い割合となったことに注目したいところです。

この割合の傾向は、月別でも同様で、直近1年の希死念慮割合は、すべての月において過去７年間よりも上回っています。中でも８・１２月が高い傾向となっています。

年齢は「中卒～18歳」の割合が高いですが、2023年度の傾向は「小学校高学年・中学生」がさらに高い割合となっているところは気になります。

性別は「女性」の割合が高いですが、これは希死念慮を持つ子が女子に多いという理解よりも、「チャイルドラインという窓口、かつ声を出して話をする電話」にアクセスしやすいのが女子に多い、と理解するほうが適切かと思われます。今後、チャットに関するデータも積み重ねられていくことで、別な結果が見えてくる可能性があります。

平均通話時間は、会話成立全体の時間よりも希死念慮の時間が「11分31秒」長くなっていました。希死念慮というテーマがゆえ、時間をかけて受け止めた結果であると思われます。

気持ちに関する傾向は、少し深掘りして分析を行いました。内訳をみると約半数が「つらい・苦しい」気持ちですが、一方で別の角度で集計すると、希死念慮の割合が「つらい・苦しい」が5.0%、「憂鬱」4.2%、「自分に自信がない」3.5%、「傷つきたくない」2.9%、「孤独・寂しさ」2.4%と、会話成立全体の希死念慮の割合の1.0%と比較しても、2.4倍～5倍の高い結果になったのは、興味深いところです。

さらに2023年度直近を集計したところ、「あきらめ」が会話成立における希死念慮割合の1.8%と比較して約６倍以上高くなっていて、気になる数字です。ただ、あくまでも参考値・速報の段階ですので今後、分析を進めます。

関係性については、会話成立全体と比較して「自分自身のこと」の割合が高くなっていました。他者の関係性や理由・その思考に至った要因について話すよりも、つながっているその時に「死にたい」と感じるほどの苦しさやネガティブな感情をまず、受け止めてほしいことが中心だろうと考えられます。

希死念慮を抱える子どもたちが少しでもネガティブ感情から前向きになれる状況になっていくことが、電話やチャットでつながる際の理想ではあります。しかし緊急時以外には、すぐに背景を詮索したり解決策を提示するのではなく、まずはその時、表出された気持ちや存在を受け止めることを大事にすることがチャイルドラインの役割です。今回の「自分自身のこと」の割合が高い傾向は、それらが結果としてデータに表れているとも言えます。

「つながった動機」は、「誰かとつながっていたい」割合が、会話成立全体（4.6%）と比較しても希死念慮の方が高い傾向（16.8%）となりました。これは関係性の「自分自身」とも関連していて、解決すべき問題よりも、まず初めに”自分自身”が「誰かとつながっていたい」と望んでいるとも読むこともできます。その背景には身近な人に打ち明けられなかったり、相談しづらいことも考えられます。孤独・孤立している状態にあることを示す面としても注目したいところです。

今回のテーマである「希死念慮」は「日本の子どもたちの自殺問題」と強い関連性があります。具体的に子どものたちの自殺を減らすため、それらの対策や環境整備をどうすすめるかを考える時、「自殺に至る手前にいる子どもたち」の状況を把握することは大変重要な意味を持つのではないでしょうか。それらの議論に、今回のデータが役立つものとなれば幸いです。

◆子どもたちの声　※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

▶朝が起きられなくて、留年になりそう。親にも迷惑をかけている。こんな自分はいなくなった方がいいんじゃないかと思う。

▶無意識に自殺しそうになって･･･でも、途中でダメだった思ってやめた。

▶引っ越してきた学校でいじめられている。母も職場で嫌がらせを受けている。死んでしまいたい。

▶親が仕事をクビになってつらそう。私もすごく不安。死にたい。

▶最近消えたいより死にたいって思うようになった。たまに飛び降りる夢を見る。

▶親に怒られる毎日でもう辛いです。毎日死ぬことを考えてます。死に方を毎日考えます。こんな日々もう嫌です。早く死にたいです。

▶私が死ねばみんな幸せになれるのかな。私が生きている意味ってあるのかな。

▶毎日誰かの暴言、僕への暴言聞いてるの苦しい…　父親も常に暴言暴力…　だからといって出て行けない。不良品でごめんね。僕が悪いんだ。産まれてこなかったらよかった。

▶夜が怖い。死にたくなる…　ストレス溜まるしイライラがとまらない。私なんて生まれてこない方が良かった。母さんにこれ以上つらい思いをしてほしくないから、悩みをなかなか言えない。でも母さんからの何気ない言葉にも傷つく。

▶リスカやODで入院したことがある。何年か前から死にたいと思っている。どうしてなのかはこころの奥過ぎてわからない。

▶いじめにあっていて死ぬしか逃げる方法はないと思う。わかってくれる人がいないわけではないけど、迷惑をかけていると思う。学校に行かなくていいとか、転校したらとか、簡単に言ってほしくない。

▶親が勝手に部屋に入って勝手に手紙読んだり机の中見たりいろいろとチェックしてくる。学校にも行きたくないし家にもいたくない。何もしたくない。死んだ後の世界のことを考えてる。

《データ資料概要と注意点》

2023年10月～2023年12月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける”データベース”等を基に、集計しまとめました。

・期間：《2023年度・第３四半期》2023年10月～2023年12月（速報値）

・データ集計日：2024年1月25日

・集計数（分母）：

【トラヒックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	7月	8月	9月	3ヶ月計	10月	11月	12月	3ヶ月計
2022年度					39,677	35,367	33,493	108,537
2023年度	35,499	35,977	35,075	106,551	30,771	32,434	29,738	92,943

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	10月	11月	12月	3ヶ月計
2022年度（全体）	16,813	15,935	14,211	46,959
2022年度（会話成立）	4,372	4,108	3,842	12,322
2023年度（全体）	14,078	14,757	12,681	41,516
2023年度（会話成立）	4,025	4,464	3,823	12,312

※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数　※他資料とはデータが異なる場合がある。

・表記の定義：　「%」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
「ポイント」＝パーセントポイント（他の%をポイントとして比較）

・データの種類：【トラヒックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積

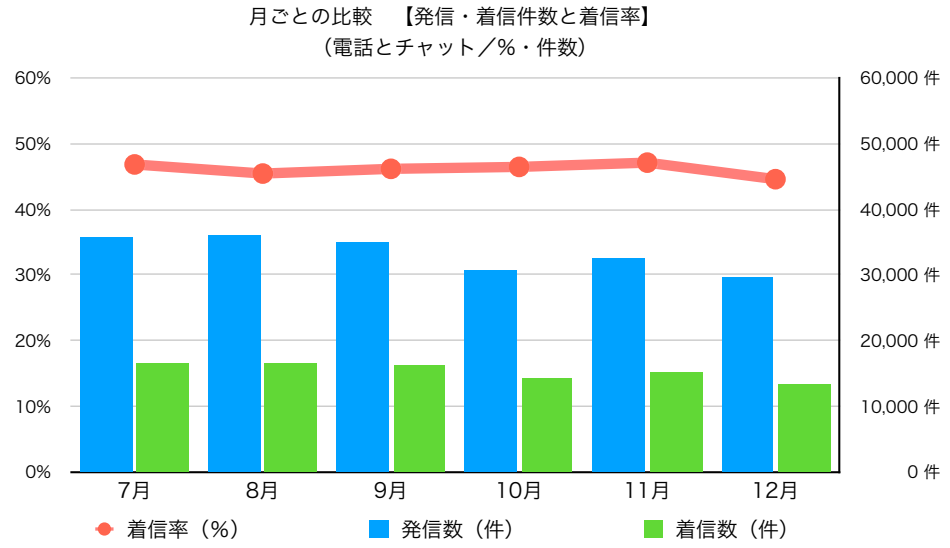
・データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある

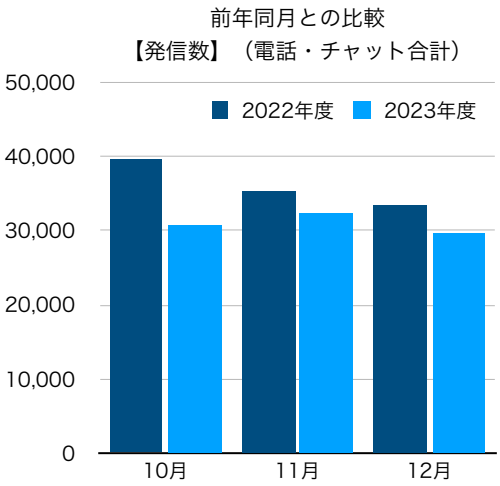
・データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合がある

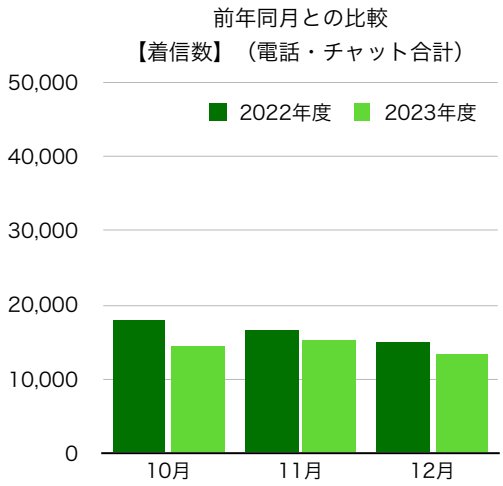
・報道関係の皆様へ：この資料でのデータは速報値で、今後、集計結果が変わる可能性があります。データ・資料について取材、引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数（電話とチャット）は、この３ヶ月では、発信数・着信数ともに大きな変化はなかった。６ヶ月の推移を見てみると、発信数・着信数ともに、やや減っている。
前年同月との比較を見てみても、発信数・着信数ともに減少した。





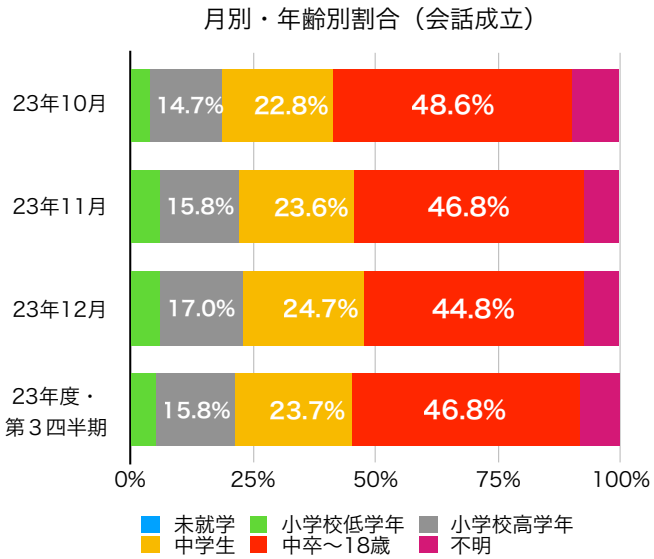


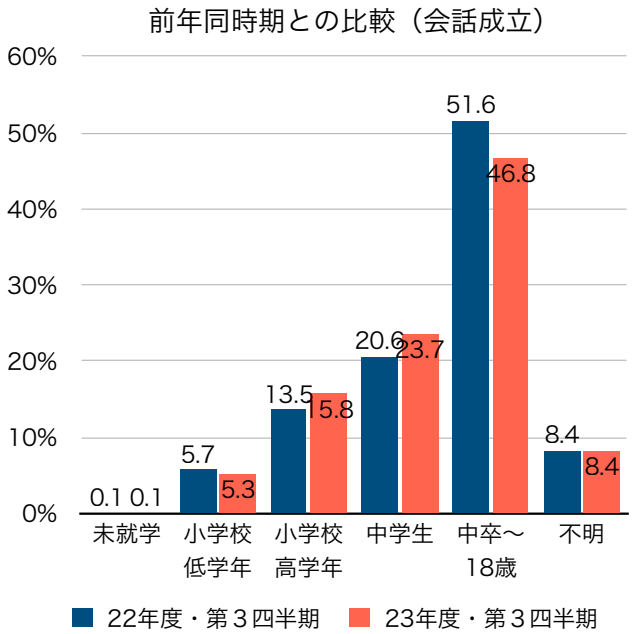
《データベース・年齢（会話成立）》

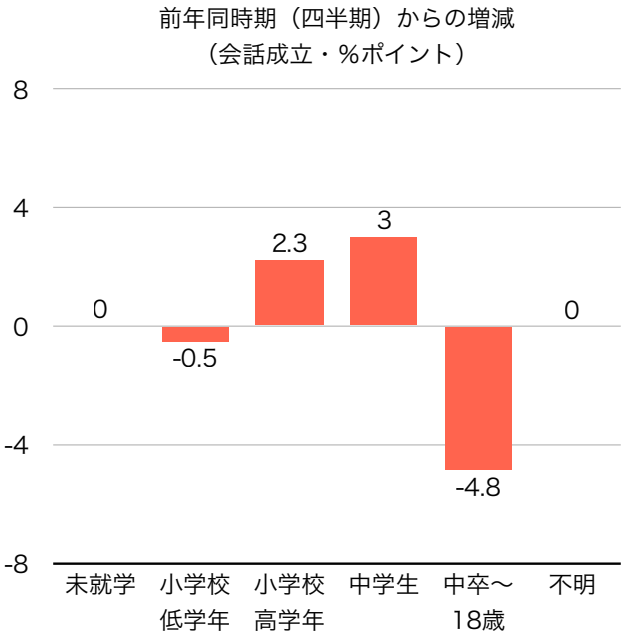
ここからはデータベースの「会話成立」（電話とチャット。以降のデータも同様）に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

年齢の割合は、３ヶ月通じて高校年齢割合が多く（約5割近く）、月別割合は10月に小学校低学年・高学年がやや減少し、中卒～１８歳が増加した。

前年同時期からの増減は、高校年齢の割合が下がり、小学校高学年・中学生が上がった。

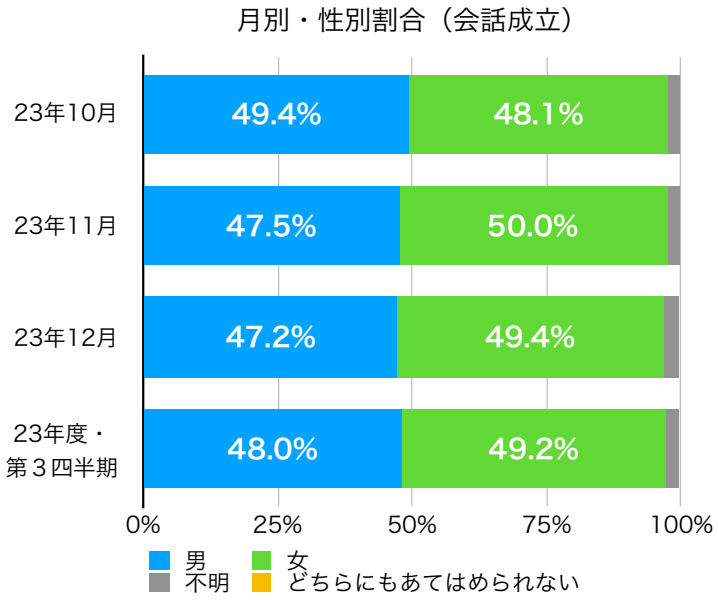


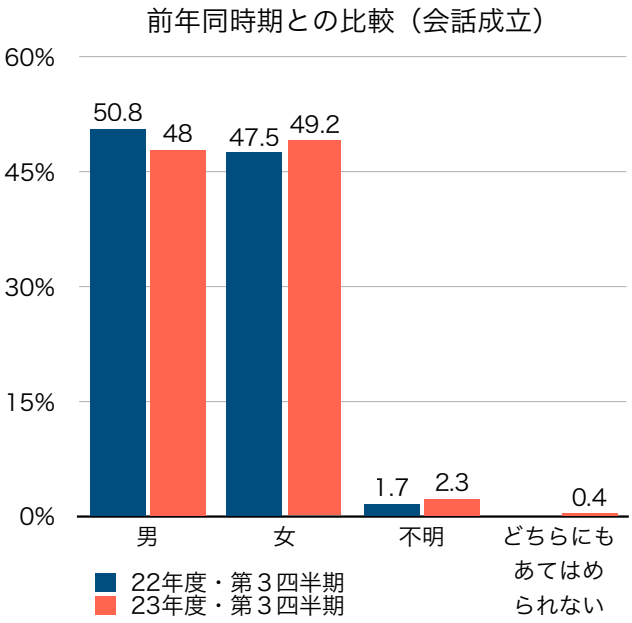


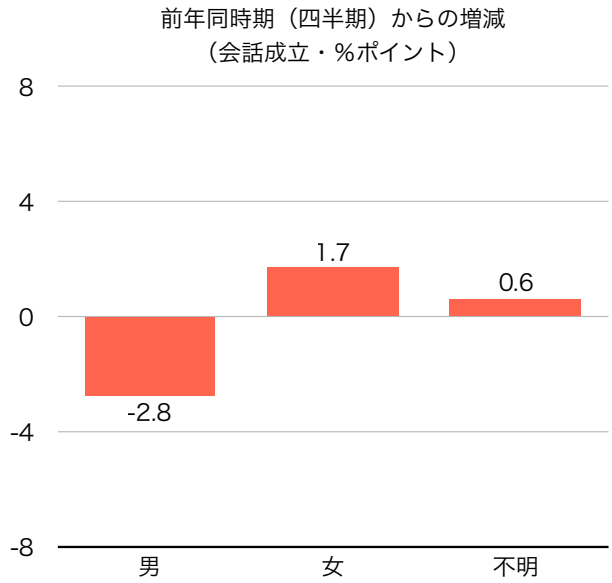


《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を集計した。男女ともに割合に大きな変化はない。前年同時期との比較では、男性が減少し、女性がやや増加した。



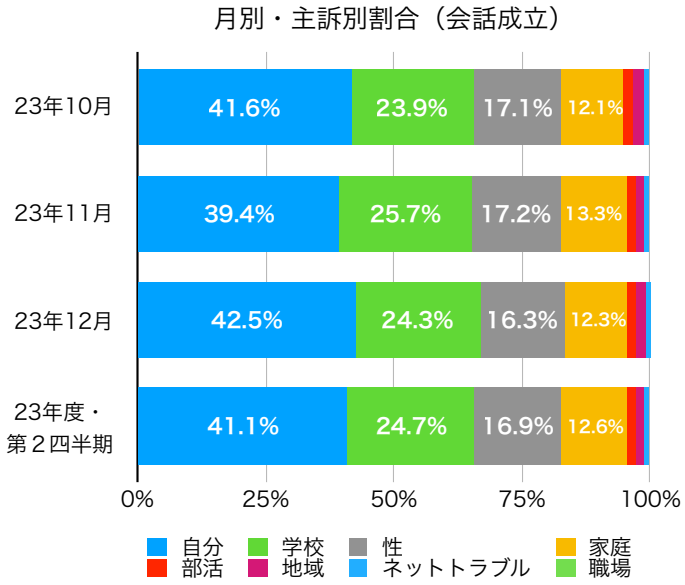


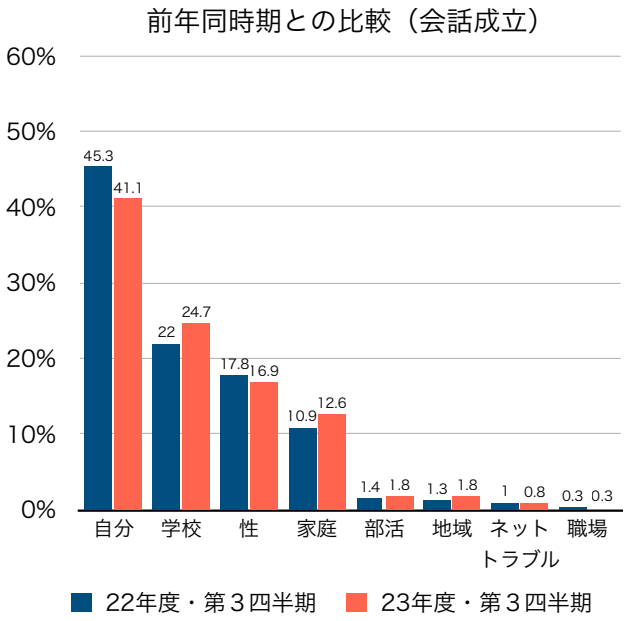


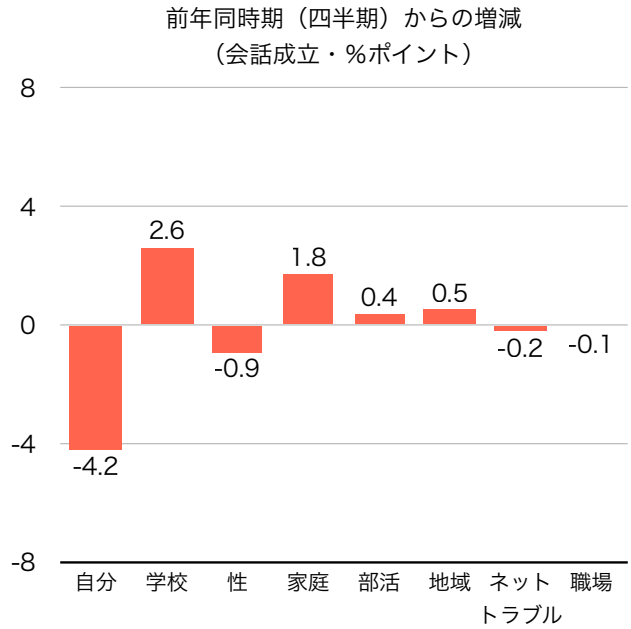
※「どちらにもあてはめられない」は2023年度から新たに項目を追加しました。また「受け手」が子どもの様子や話の内容等から、男女以外の性が推察される場合に選択する形となっています。

《データベース・主訴［大項目］（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴［大項目］」を集計した。11月に「学校」がやや増加し、「自分」が減少、12月は「性」がやや減少した。前年同時期との比較は、「自分」が減少、「学校」「家庭」がやや増加した。

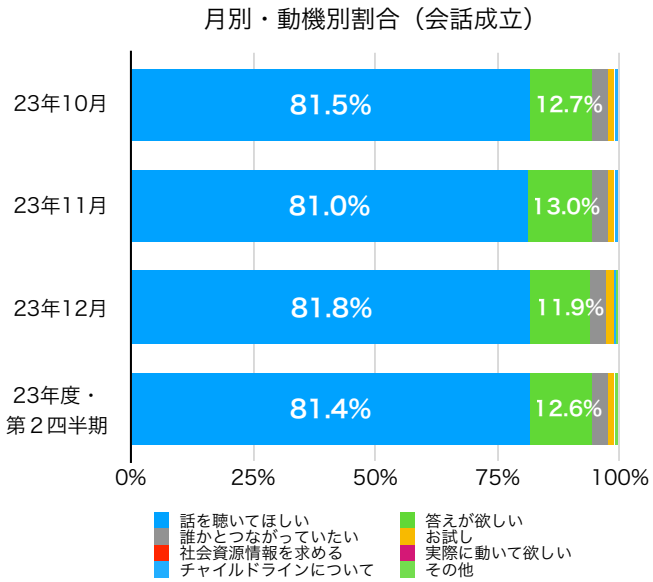


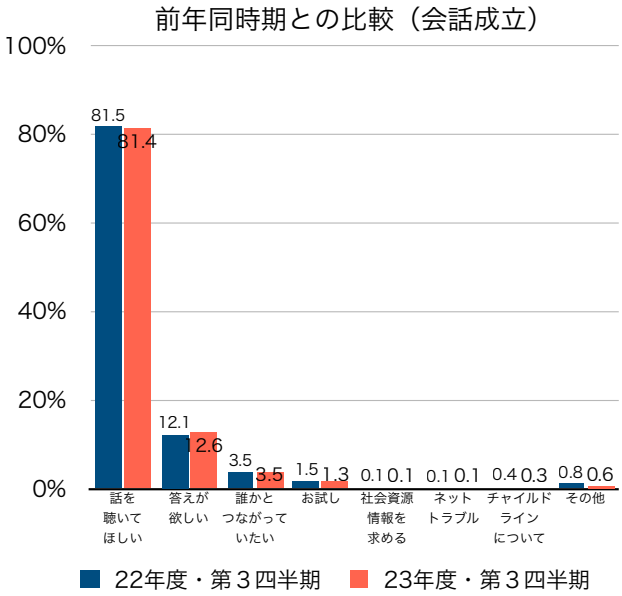


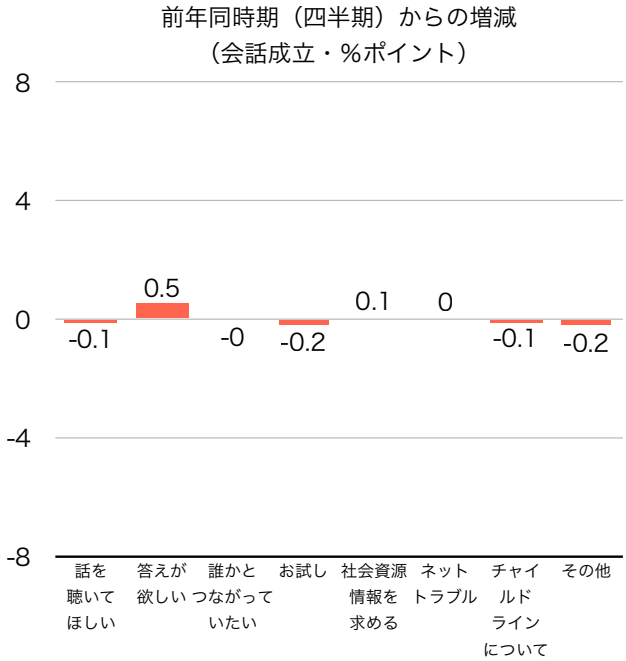


《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。前年同時期との比較は、大きな変化はなかった。





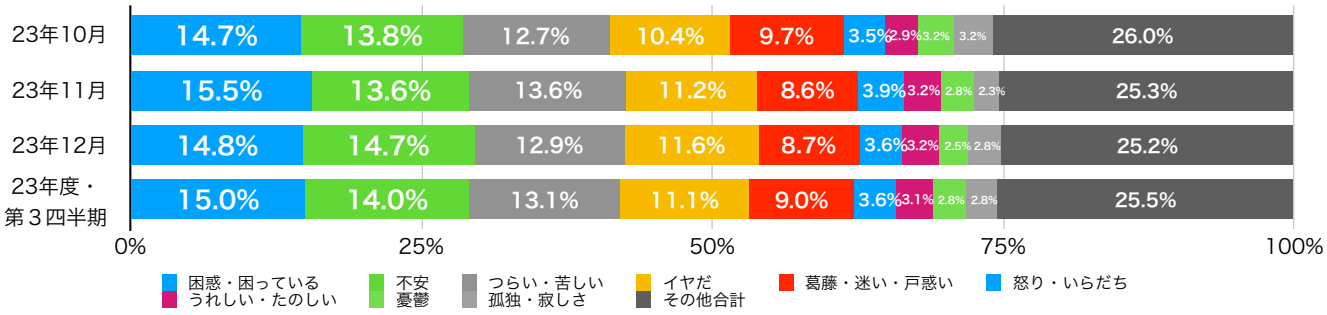


《データベース・気持ち（会話成立）》

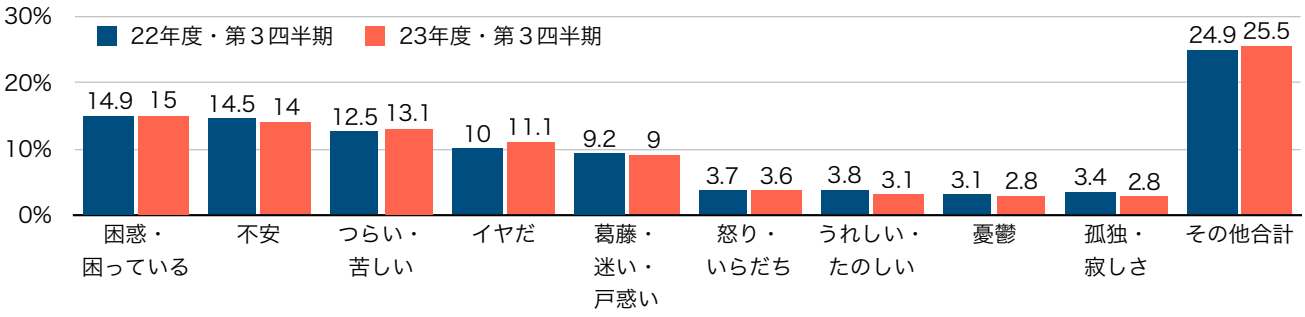
データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を集計した。月別割合は多少の変化がある程度だった。前年同時期との比較においては、「イヤだ」が少し増加したが、それ以外の大きな変化はなかった。

（※一部、項目において、割合が多い順ではない箇所があるが、前回グラフの割合順に統一して表記した）

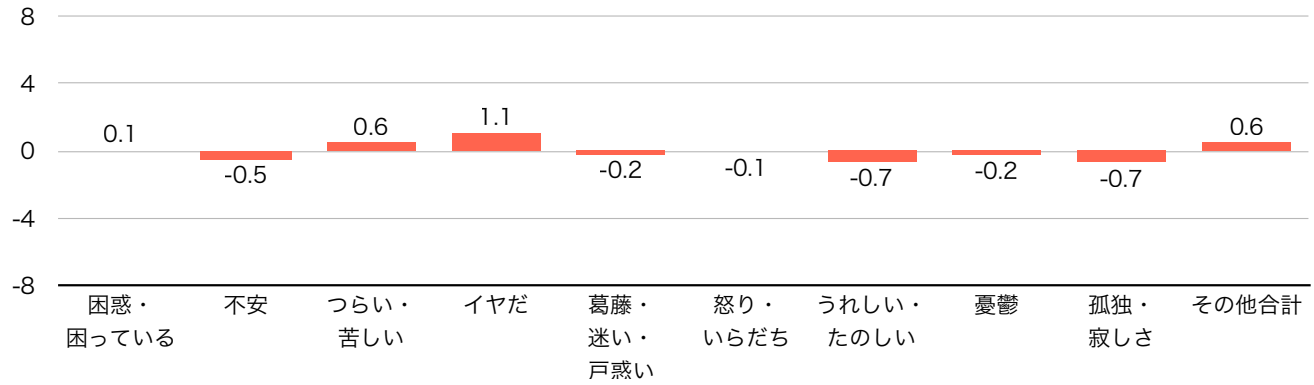
月別・気持ち別割合（会話成立）



前年同時期との比較（会話成立）

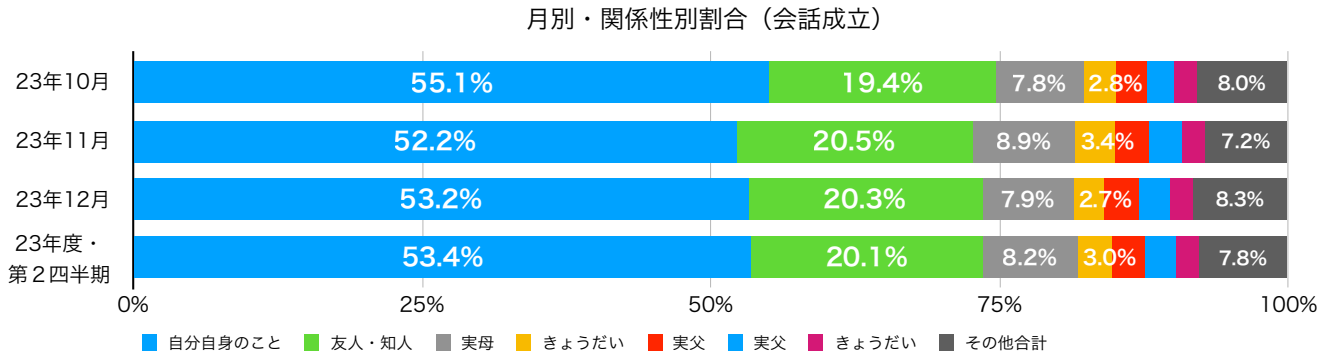


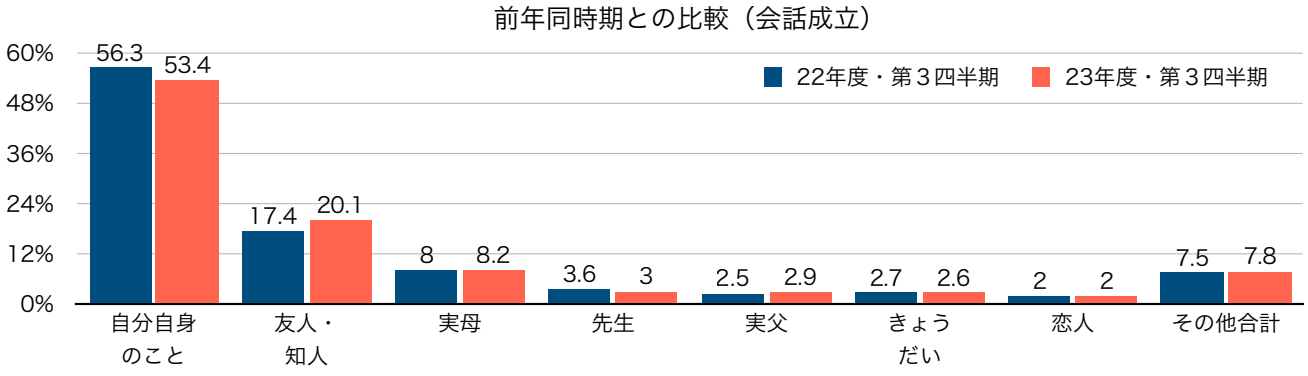
前年同時期（四半期）からの増減　（会話成立・%ポイント）

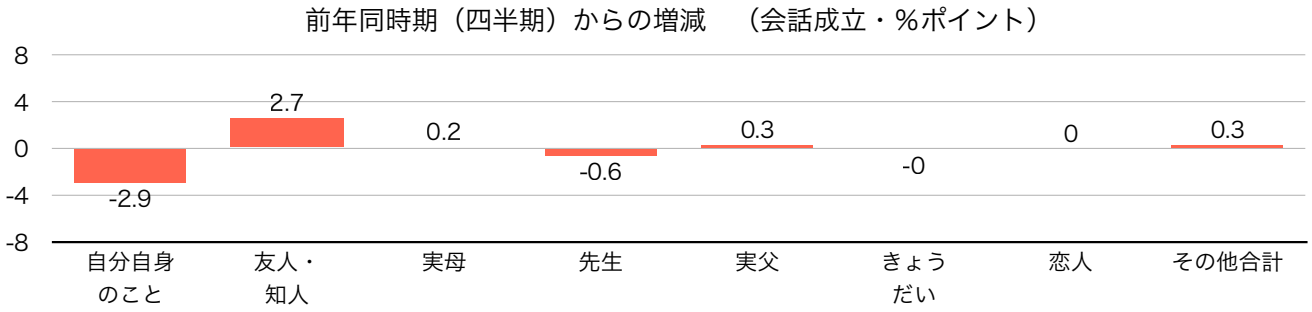


《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。月別では、10月に「自分自身」がやや増加し、「友人・知人」が減少した。前年同時期との比較は「自分自身のこと」がやや減少し、「友人・知人」がやや増加した。





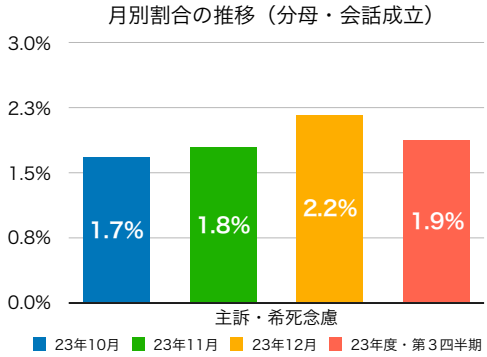


《データベース・「希死念慮を主訴とするもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮を主訴とするもの」を集計した。集計数が少ないので参考値だが、12月に割合がやや増加している。月別割合の推移は、他のページと違い、グラフ数値を拡大している。

希死念慮を主訴とするものの件数

年月	件数
23年10月	67件
23年11月	80件
23年12月	83件
合計	230件

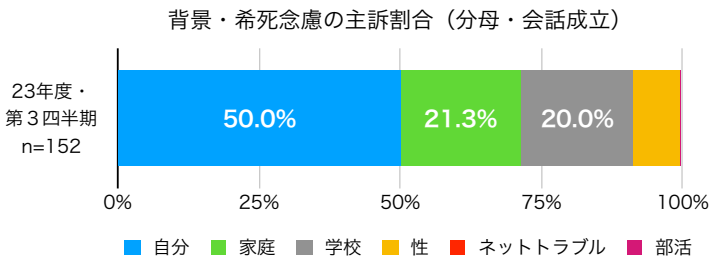


《データベース・「希死念慮が背景にあるもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮が背景にあるもの」を集計した。10月の件数が11月と12月比較してやや少ないなど変化はあるが、参考値と考えたほうがよい。主訴の割合では、自分、家庭、学校が多い。

背景に希死念慮がある件数

年月	件数
23年10月	34件
23年11月	68件
23年12月	50件
合計	152件



《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計したもの（属性などは自己申告・記入）。10月から12月につぶやかれた件数は、5,731件。さまざまな内容、性別、年齢の子どもから利用されていることが分かる。

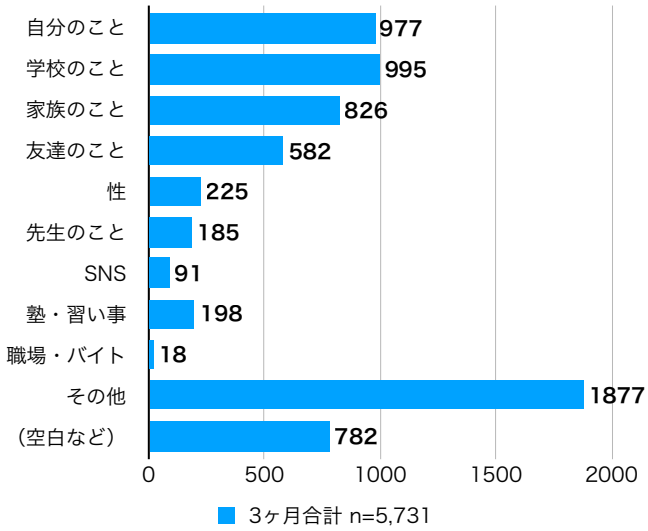
つぶやいた内容のジャンルは、順に「その他」「学校のこと」「自分のこと」「家族のこと」「友達のこと」となっている。性別は「女性」が圧倒的に多い。

また、年齢は、概ね10歳から13歳ぐらいまでが約10～16%と最も多い。

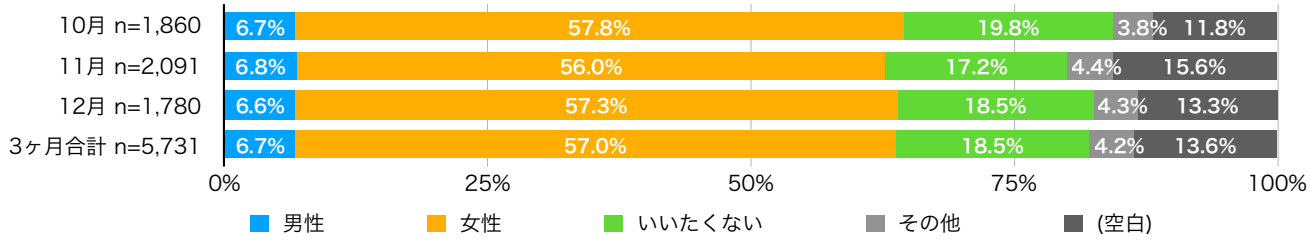
つぶやきに書き込みがあった総数

10月	11月	12月	合計
1,860件	2,091件	1,780件	**5,731件**

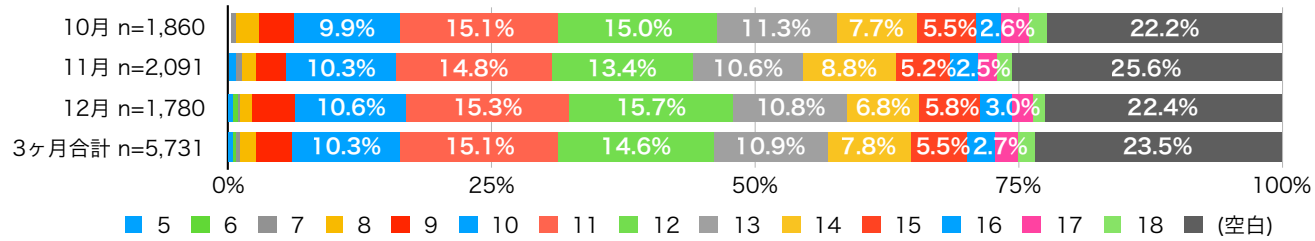
【つぶやく】テーマ別・複数選択



【つぶやく】月別・性別割合（全体）



【つぶやく】月別・年齢割合（全体）



【この資料に関する問い合わせ】

制作・著作：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

〒162−0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F

メール：info@childline.or.jp　電話：03-5946-8500
ウェブサイト：https://childline.or.jp/